

『百人一首』の古注釈を読む

国語教育・小助川元太

1. 授業の基本情報・概要

日本古典文学研究は、学校教員養成課程における国語教育の国文学分野の選択科目である。本授業では、まずは古文を現代語訳できる力を身につけると同時に、古文が時代を超えて読み継がれてきたということを実感し、解釈の幅から読みの面白さを見出すことのできる力を伸ばすために、『百人一首』の古注釈の読み比べを行っている。今年度のシラバスに記載した授業の目的と目標は以下のとおりである。

【授業の目的】

本授業では競技かるたとして、また、教育現場でも古典文学入門として取り上げられることが多い『百人一首』を読解する。とくに授業では、中世から近世にかけて書かれた古注釈を読むことで、現代の解釈とは異なった享受のされ方を学ぶ。また、演習を通して、古典文学の研究方法の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

1. 辞書を用いながら、古典文学を読むことができる。
2. 『百人一首』に関する基礎知識を身につける。
3. 作品の読解を通して、日本の古典文学に関する知識を深める。

上記の目標・目的を達成するべく、以下のような授業と評価を行った。

【授業の進め方】

1. 変体仮名で書かれたその日の『百人一首』の和歌を翻刻して口語訳する（グループ作業）
2. 和歌の古注釈をグループ別に割り当て、口語訳をする（グループ作業）
3. 完成した口語訳を発表し、その日のテーマについてディスカッションを行う。

【実際の授業内容】

- 第1回：(講義) ガイダンス (『百人一首』について、授業の進め方など)
- 第2回：(演習) 1「秋の田の...」
- 第3回：(演習) 2「春過ぎて...」

第4回：(演習) 6「鶺鴒の...」

第5回：(演習) 7「天の原...」

第6回：(演習) 19「難波かた...」

第7回：(演習) 21「今来むと...」

第8回：(演習) 30「有明の...」

第9回：(演習) 38「忘らるる...」

第10回：(演習) 51「かくとだに...」

第11回：(演習) 70「さびしさに...」

第12回：(演習) 76「わたの原...」

第13回：(演習) 72「音に聞く...」

第14回：(演習) 33「久かたの...」

第15回：(講義) まとめ・和歌の解釈の多様性と授業の教材としての可能性について

【成績評価】

課題報告（40%）、レポート（40%）及び授業に取り組む姿勢（20%）により、総合的に評価する。

2. 授業評価・授業研究の内容

授業評価については、最終授業の際に匿名のアンケートを行った。（35名）質問項目は以下のとおりである。

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？
5. 意見・要望・感想・メッセージなどがあれば、書いてください。

3. 授業評価結果

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？

ア 真面目に取り組んだと思う。 (7名)
イ ときどき集中していなかったときもあった。 (3名)
ウ あまり真面目に取り組んでいたとはいえない。 (0名)

2. 授業内容は理解しやすかったですか？

ア 理解しやすかった。 (6名)

イ ふつうだった。(2名)

ウ 難しかった。(2名)

3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？

- 変体仮名が読めるようになったところ。
- 変体仮名を読むのが面白かったです。徐々に読めるようになっていって嬉しかったです。
- 色々な説を比較していく所。一つの歌を色々な解釈ができると実感できた。
- 意見の異なる複数の注釈を扱ったところ。
- 一つ歌に関して異なる解釈を読むということが、それだけで面白かった。
- 百人一首の解釈に踏み込んだところ。
- 「さびしさに宿を立ち出でてながむればいつくも同じ秋のゆふぐれ」の解釈をめぐって議論したところ。
- 仮名の翻刻。
- 人物の説明。
- 今まで取り組んでいなかった百人一首の解釈にふれ、その時代のいろいろな気持ちや悩みをうたにしているところを読み取るところが面白い。

4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？(以下抜粋)

- 人によって歌の捉え方や解釈が異なること。現代の私たちでは考えつかない捉え方を知ることができて面白かった。
- 自分では絶対に思いつかないような解釈があり、自分や現代の常識とのギャップがおもしろかった。
- 歌の意味を訳すだけではなく、当然訳し方にも異説があるところに、それぞれの時代での解釈をしているところ。
- 一つの歌にいろいろな考え方がることが知れたところ。
- 人の気持ちと見えるものは連動しているのかもしれないという解釈があったのが、印象深く残ったから。
- 知識がなければ全く読めない字を少しは読めるようになったから。松山に多くある句碑も少しは読めるようになったのが嬉しいです。
- 知っている歌人の新たな一面や、その親類との関連図を見ることができたのはおもしろかった。
- その歌を訳してみているいろいろな解釈を

聞いたとき。

5. 意見・要望・感想・メッセージ

- 変体仮名を解説するという経験はこの授業だからこそできることではないかと思ひ、とても良い経験ができたと感じた。
- たくさん和歌・解釈に触れることができて良かったと思います。字母を考えるのも、少し読めるようになるのも嬉しかったです。
- 毎週楽しみにしていました。
- 私は昔から古典が苦手なので、口語訳が非常に難しかった。しかも、百人一首をやったことがなかったため、和歌も初見ばかりでかなり落ちこぼれだったと思う。しかし、母が百人一首クラブに入っていたこともあり、会話ができた。受講してよかったと思う。
- 楽しかったです。
- 毎授業、とても面白かったです。

3. 「授業時間外学習の促進」について

授業で配布をした資料のうち、その時間に担当していない古注釈の解釈をしておくように指示をした。

4. 総括

本授業が今の形になったのは9年前からであるが、毎年、取り上げる和歌やその時間に解釈させる古注釈の分量、ディスカッションのテーマなど、工夫を重ねた結果、毎回の授業で学生に一定の達成感と問題意識を持たせることができるようになってきている。アンケートの2問目「授業内容の理解のしやすさ」では、「理解しやすかった」が6人、「ふつうだった」が2人、「難しかった」が2名という結果であったが、5問目の「意見・要望・感想・メッセージ」では、「面白かった」「毎週楽しみにしていた」「たくさん和歌・解釈に触れることができて良かった」「変体仮名が読めるようになって良かった」という記述が見られたため、学生の多くが授業内容には満足していたものと思われる。課題として「古典が苦手なので口語訳が非常に難しかった」という意見があったため、これから増えてくるであろう、古文が苦手な学生への手立てを考える必要がある。今後の課題としたい。